

平成 25 年 12 月 10 日
内 閣 府
原 子 力 政 策 担 当 室

第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） 大臣級会合の開催について（案）

平成 25 年 12 月 19 日（木）、三田共用会議所（東京都港区）にて、第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA^{※1}）大臣級会合を開催いたします。

今次会合では、東京電力福島第一原子力発電所の現況と今後について情報発信を行うと共に、FNCAプロジェクトの成果の活用、核セキュリティ文化の醸成について議論をする予定です。

※1 我が国が主導するアジア地域の原子力技術の平和的で安全な利用を進めるための協力フォーラムであり、大臣級会合はアジアの参加国の原子力担当大臣クラスが、原子力技術の平和利用に関する地域協力のため、年一回政策対話を行うものです。（ウェブサイト：<http://www.fnca.mext.go.jp/>）

1. 主 催 内閣府、原子力委員会
2. 開催日 平成 25 年 12 月 19 日（木）
 ※ 18 日（水）は上級行政官会合を開催（プレスオープンなし）
3. 開催場所 三田共用会議所 国際会議室（3 階）
4. 参加予定国
 オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本^{※2}、カザフスタン、
 韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム

※2 日本からは、山本一太内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の他に、近藤駿介原子力委員会委員長及び原子力委員会各委員、町末男 FNCA 日本コーディネーター、尾本彰国立大学法人東京工業大学特任教授等が出席予定。また、IAEA から講演予定。
以上

第14回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） 大臣級会合 プログラム

平成25年12月19日（木）

プレスオープン部分

セッション1：開会（9：40～10：15）

- 1）開会・歓迎挨拶（山本内閣府特命担当大臣）
- 2）参加者自己紹介
- 3）プログラム確認
- 4）上級行政官会合報告

集合写真（10：15～10：25）

セッション2：カントリーレポート（10：25～11：25）

- 1）各国発表

セッション3：FNCA活動報告（11：40～12：20）

- 1）FNCAプロジェクトの活動状況
- 2）第5回「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」報告

セッション4：東京電力福島第一原子力発電所の現況と今後（13：30～13：55）

- 1）廃止措置へ向けた取組（汚染水を含む）（経産省）

セッション5：円卓討議1「FNCAプロジェクトの成果の活用」（13：55～14：40）

- 1）FNCAプロジェクト成果の各国での活用状況（日本）
- 2）フィリピンにおける成果活用の事例紹介（フィリピン）
- 3）討議

セッション6：円卓討議2「核セキュリティ文化の醸成」（14：40～15：25）

- 1）核セキュリティ文化の現状（IAEA）
- 2）インドネシアの核セキュリティ文化醸成に係る取組の紹介（インドネシア）
- 3）討議

セッション7：決議及び会合サマリーに関する討議（15：45～16：45）

- 1）決議について討議及び採択
- 2）会合サマリーについて討議及び採択

プレスオープン部分

セッション8：閉会（16：45～17：15）

- 1）大臣級会合の総括
- 2）次回開催国挨拶
- 3）閉会挨拶（近藤原子力委員会委員長）

第14回アジア原子力協力フォーラム（FNCA） 大臣級会合 会場地図

三田共用会議所 国際会議室（3階）

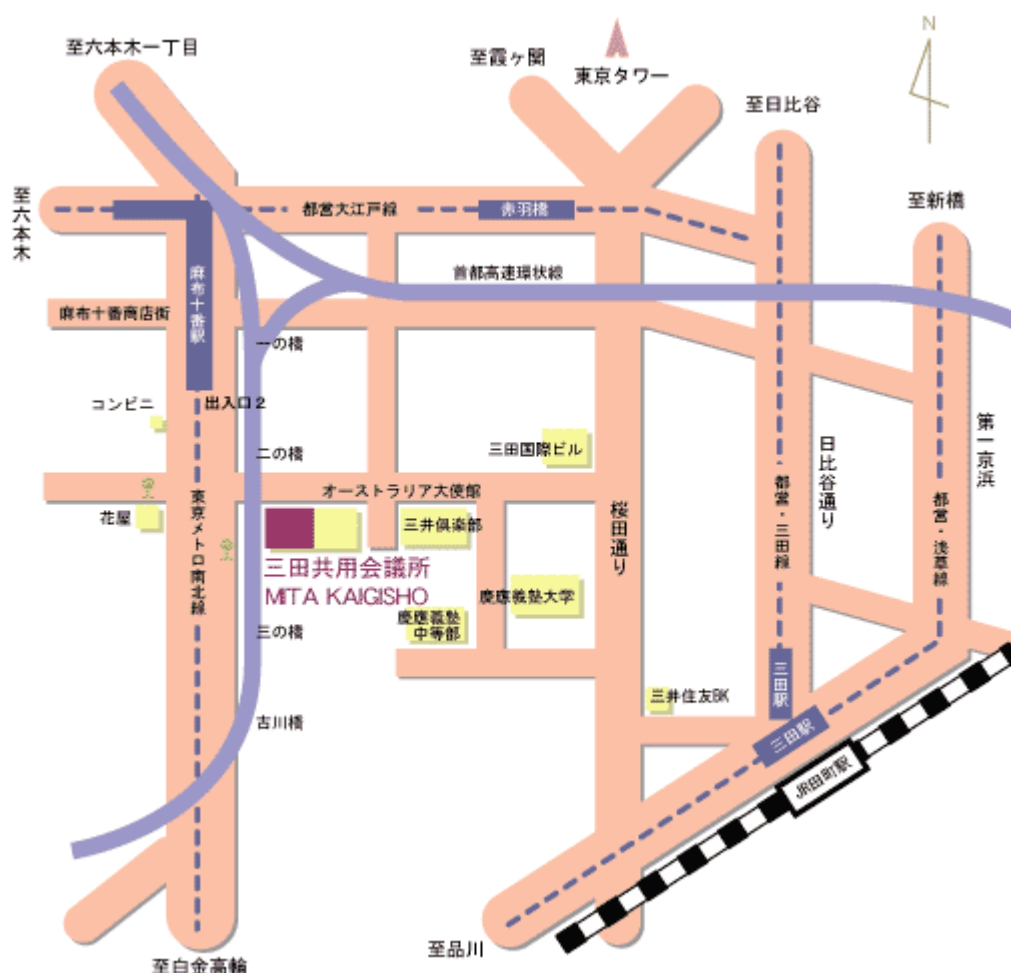
【住所】

東京都港区三田 2-1-8

【交通手段】（地下鉄）

東京メトロ 南北線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩5分

都営地下鉄 大江戸線 麻布十番駅下車 2番出口より徒歩7分



第 14 回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)

大臣級会合 海外出席者一覧

① オーストラリア

1) Mr. Steven McIntosh(スティーブン・マッキントッシュ)

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)国際関係、政府業務・政策マネジャー

2) Mr. Peter McGLINN(ピーター・マックグリン)

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)国際関係シニアアドバイザー

② バングラデシュ

1) Mr. Abdul Latif SIDDIQUE(アブドウル・ラティフ・シッディーク)

バングラデシュ科学技術省(MOST)・繊維省大臣

2) Mr. Abu Sayeed Mohammad FIROZ(アブ・サイード・モハンマド・フィロス)

バングラデシュ原子力委員会(BAEC)委員長

③ 中国

1) Mr. LONG Maoxiong(ロン・マオション)

中国核能行業協会(CNEA)副事務局長

2) Mr. LIU Hansi(リウ・ハンシ)

中国国家原子能機構(CAEA)プロジェクト担当官

④ インドネシア

1) Prof. Dr. Djarot Sulistio WISNUBROTO(ジャロット・スリスティオ・ウィスヌブROTO)

インドネシア原子力庁(BATAN)長官

2) Mr. Falconi Margono SOETARTO(ファルコーニ・M・ソエタルト)

インドネシア原子力庁(BATAN)副長官(研究開発成果利用・原子力科学技術広報官)

⑤ カザフスタン

1) Dr. Erlan G. BATYRBKOV(エルラン・G・バティルベコフ)

カザフスタン国立原子力研究所(NNC)総裁

⑥ 韓国

1) Mr. Sang Mok LEE(サン・モク・イ)

韓国未来創造科学部(MSIP)副大臣

2) Dr. Tai Surp JOE(テ・ソップ・チョ)

韓国未来創造科学部(MSIP)原子力宇宙協力課上級課長代理

- ⑦ マレーシア
- 1) Mr. Ewon EBIN(エウオン・エビン)
マレーシア科学技術革新省(MOSTI)大臣
 - 2) Dr. Muhd Noor Bin MUHD YUNUS(モハメド・ノール・ビン・モハメド・ユヌス)
マレーシア原子力庁副長官(研究技術開発プログラム部門)
- ⑧ モンゴル
- 1) Mr. SAINBILEG Chuluunbat(サインビレク・チョローンバト)
モンゴル内閣官房副長官
 - 2) Mr. Norov TEGSHBAYAR(ノロヴ・テグシュバヤル)
モンゴル原子力庁(NEA)長官
- ⑨ フィリピン
- 1) Dr. Ameria P. Guevara(メリア・P・グエバラ)
フィリピン科学技術省(DOST)副大臣
 - 2) Dr. Alumanda M. DELA ROSA(アルマンダ・M・デラ・ローサ)
フィリピン原子力研究所(PNRI)所長
- ⑩ タイ
- 1) Mr. Phiraphan PHALUSUK(ピーラパン・パルサック)
タイ科学技術省(MOST)大臣
 - 2) Dr. Somporn CHONGKUM(ソンポーン・チョンクム)
タイ原子力技術研究所(TINT)所長
- ⑪ ベトナム
- 1) Mr. LE Dinh Tien(レ・ディン・ティエン)
ベトナム科学技術省(MOST)副大臣
 - 2) Dr. CAO Dinh Thanh(カオ・ディン・タン)
ベトナム原子力研究所(VINATOM)副所長
- ⑫ IAEA
- 1) Mr. Carlos Torres Vidal(カルロス・トーレス・ビダル)
IAEA原子力安全セキュリティ局核セキュリティ室予防課課長

アジア原子力協力フォーラム (FNCA : Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の概要

1. 概要及び目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す。

2. 参加国

オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムの全12か国（この他にIAEAがオブザーバー参加）

3. 経緯

平成2年から原子力委員会が主催し開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一堂に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置付け（アジア諸国との協力部分）>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。（略）これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム（FNCA）、IAEAのアジア原子力地域協力協定（RCA）といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

（参考）「アジア地域原子力協力国際会議」は平成2年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するために、日本主導で設立された。平成10年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

(1) 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

開催日時・場所	我が国代表出席者	主な議論のテーマ
第1回 平成12年11月 タイ	大島科学技術庁長官	・原子力利用の推進 ・原子力安全 ・地域原子力協力の推進
第2回 平成13年11月 東京	尾身科学技術政策担当大臣	・持続可能な発展と原子力 ・放射線利用分野における協力のあり方
第3回 平成14年10月 韓国	細田科学技術政策担当大臣	・人材養成戦略 ・持続可能発展と原子力
第4回 平成15年12月 沖縄	茂木科学技術政策担当大臣	・放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大 ・持続可能な発展と原子力エネルギー
第5回 平成16年12月 ベトナム	棚橋科学技術政策担当大臣	・アジアにおける原子力人材育成に関する協力 ・FNCAの今後のあり方
第6回 平成17年12月 東京	松田科学技術政策担当大臣	・アジアにおける原子力人材育成に関する協力 ・科学技術と原子力
第7回 平成18年11月 マレーシア	平沢内閣府副大臣	・アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割 ・原子力エネルギーの広報
第8回 平成19年12月 東京	岸田科学技術政策担当大臣	・原子力エネルギーの平和利用への取組みとFNCA活動 ・放射線利用を中心としたFNCA活動
第9回 平成20年11月 フィリピン	増原内閣府副大臣	・原子力発電の基盤整備のための協力 ・放射線利用のさらなる促進のための協力
第10回 平成21年12月 東京	菅科学技術政策担当大臣	・原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力 ・放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力
第11回 平成22年11月 中国	和田内閣府大臣政務官	・原子力エネルギー利用促進のためのさらなる協力 ・放射線・アイソトープ応用促進のためのさらなる協力
第12回 平成23年12月 東京	細野内閣府特命担当大臣 中塚内閣府副大臣	・基盤整備(人材養成と広報) ・放射線・アイソトープ応用促進のための協力
第13回 平成24年11月 インドネシア	白眞勲内閣府副大臣	・FNCAの役割
第14回 平成25年12月 東京	山本内閣府特命担当大臣	・FNCAプロジェクトの成果の活用 ・核セキュリティ文化の醸成

(2) コーディネーターとコーディネーター会合

自国における FNCA プロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。日本のコーディネーターは町末男原子力研究開発機構フェロー。

(開催実績)

○第 1 回	コーディネーター会合	平成 12 年 3 月	東京
○第 2 回	コーディネーター会合	平成 13 年 3 月	東京
○第 3 回	コーディネーター会合	平成 14 年 3 月	東京
○第 4 回	コーディネーター会合	平成 15 年 3 月	沖縄
○第 5 回	コーディネーター会合	平成 16 年 3 月	東京
○第 6 回	コーディネーター会合	平成 17 年 3 月	東京
○第 7 回	コーディネーター会合	平成 18 年 3 月	東京
○第 8 回	コーディネーター会合	平成 19 年 2 月	東京
○第 9 回	コーディネーター会合	平成 20 年 3 月	東京
○第 10 回	コーディネーター会合	平成 21 年 3 月	東京
○第 11 回	コーディネーター会合	平成 22 年 3 月	東京
○第 12 回	コーディネーター会合	平成 23 年 3 月	福井 (中止)
○第 13 回	コーディネーター会合	平成 24 年 3 月	福井
○第 14 回	コーディネーター会合	平成 25 年 3 月	東京

(3) 検討パネル

平成 16 年から平成 18 年の3か年間「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル(第1フェーズ)を開催し、アジア地域における長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から原子力エネルギーの役割を評価した。

その結果を受け、第2フェーズとして平成 19 年から平成 20 年の2か年間「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」を開催し、1) 原子力発電分野における人材養成、2) 原子力発電にかかわる安全確保のための基盤整備について議論を行なった。平成 20 年 11 月にマニラで開催された第9回 FNCA 大臣級会合では、第3フェーズとして平成 21 年から「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」を開催することが決定された。

(開催実績)

■第1フェーズ

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割検討パネル」

○第 1 回	パネル会合	平成 16 年 10 月	東京
○第 2 回	パネル会合	平成 18 年 1 月	東京
○第 3 回	パネル会合	平成 18 年 11 月	敦賀

■第2フェーズ

「アジアの原子力発電分野における協力に関する検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成19年10月 東京

○第2回 パネル会合 平成20年 9月 東京

■第3フェーズ

「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」

○第1回 パネル会合 平成21年 7月 東京

○第2回 パネル会合 平成22年 7月 韓国

○第3回 パネル会合 平成23年 7月 インドネシア

○第4回 パネル会合 平成24年 7月 タイ

○第5回 パネル会合 平成25年 8月 東京

(4) 個別プロジェクトについての協力活動

FNCAの下で、放射線利用開発、研究炉利用開発、原子力安全強化、原子力基盤強化の分野で10のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されており、プロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動の取りまとめを実施している。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、今後の協力や実施計画を策定する。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の構成

